

「フードバレーとかち」が結ぶ縁



シテイ アズミラ 氏

帯広商工会議所
国際ビジネス推進室国際ビジネス交流員

マレーシア、ケダ州出身。芝浦工業大学工学部卒業後、マレーシアの住友金属エレクトロデバイスで技術職を、デルコンピューター、及びシンガポールのアップルで営業職に就いた。その後、マレーシアでのフリーの通訳・翻訳業を経て2016年4月から現職。



中学校で日本語を学ぶ

日本人がマレーシア語で教えてくれることと、姉が日系企業に勤めていること、さらに教材にアニメのキャラクターが載っていてかわいいので、日本語を選択しました。芝浦工業大学を卒業後、母国に戻り工学、サービス分野の仕事を経てフリーの通訳になりました。

2014年、マレーシアに帯広商工会議所とJICA北海道（帯広）が「フードバレーとかち」の調査に訪れたときに、通訳や現地の調整にあたったのが縁で、2016年に帯広に来ました。

挑戦することが楽しい

いつも「いろんなことに挑戦してみたい」と思っています。一番嫌いなのは、「やっても駄目だろう」と諦めること。失敗して後悔する方がいいです。

今の仕事には挑戦したいことばかりです。「フードバレーとかち」では、十勝の地域ブランドとハラル^{*1}対応により産業の活性化を図ろうと、マレーシア・タイとの関係を急速に強めています。タイでは言葉に苦労しましたし、どの仕事でも、打合せ^{ためし}や見学など毎日、変更、変更で100%計画どおりいった例がありません。未経験の分野で、例えば、十勝のチーズ工場の見学では、通訳の自分だけが知らない言葉を農家の方に丁寧に教えてもらいました。

フードバレーとかちをケダ州へ

今年から、「フードバレーとかち」の第Ⅲフェーズに入り、マレーシアで十勝をモデルにした「ケダ・フー

ドバレー」を政策として定着させようとしています。

私が「フードバレーとかち」の取組で、ケダ州に最も紹介したいのは、この取組に関係しているのが政府機関や自治体だけではなく、民間、大学、研究機関、農家などであり、全員が力を合わせ協力していることです。この連携が一番大事です。ケダでも、政府機関や農家、もしかしたら消費者も含めて様々な人に参加してほしいと思います。

十勝はたくさんの魅力がまとめられ「十勝ブランド」としての知名度があります。ケダ州も十勝ブランドのような誇りを持てるようにしたいのです。

あえて十勝に注文するなら

帯広、十勝の人に注文があるとすれば、インバウンドを呼ぶためにもっと一体となってやりましょう、と。多くの人が理解できる英語での情報発信が少ない。日本語表記だけでは外国からの観光客には分かりません。折角の食についても、ムスリム・フレンドリー^{*2}な、もう少し多様性を備えたメニューが必要です。

北海道の人の温かさがあって、ここまでやってこられました。マレーシアからイチゴ農家を見学したいと言われて困っていたら、知り合いの知り合いが、受け入れてくれる人を見つけてくれました。人と人とのつながりが大切だと感じています。人を経由して話が来て、仕事が前に進みます。いつも助けてもらっていますので、これからもどんどん挑戦していきます。(談)

インタビュー日 2019年10月24日

^{*1} ハラル
イスラム教の教義に従って調整された食品。

^{*2} ムスリム・フレンドリー
ムスリム(イスラム教徒)が、利用しやすく親しみやすい、快適に過ごせる環境という意味の造語。